

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2017年10月16日

【2017年10月7日～2017年10月13日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは、対米ドルで小幅に上昇する一方、対円では小幅に下落しました。また、2年国債金利は小幅に低下しました。

週前半は、米国とトルコの外交関係が悪化するなど、地政学リスクの高まりから市場のリスク回避的な姿勢が強まった結果、為替は下落し金利は上昇しました。その後、下院委員会でテメル大統領の訴追に関する報告が行われ、調査委員が訴追の却下を勧告しました。これを好感して、金利は低下に転じました。

週後半は木曜日が祝日で休場だったこともあり、目立った材料はありませんでしたが、金曜日に発表された米国の消費者物価指数を受けて米ドル安が進んだことから、為替は上昇しました。なお、金利は小幅に低下しました。

経済指標では、小売売上高が発表されました。前月比および前年比ともに市場予想よりも悪い数字となり、景気回復への影響が懸念される結果でした。

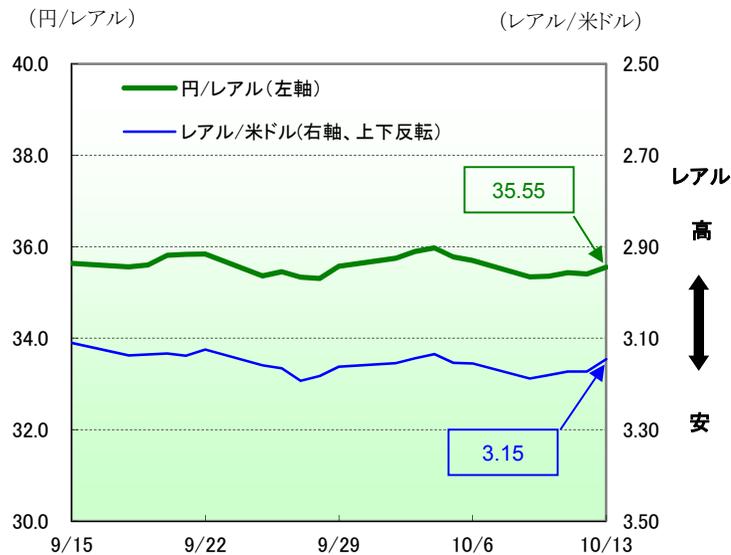
【2】今週の見通し

ブラジル金融市場は、テメル大統領の2回目の訴追に関する政治情勢に左右されやすい状況が続く見込みです。今週は同大統領の訴追について下院委員会での採決が予定されていますが、先週の下院委員会での報告がテメル大統領にとって好ましいものであったこともあり、訴追が否決される可能性は以前よりも高まったと考えています。採決における得票数は現時点でのテメル大統領の求心力を示すものでもあり、今後の構造改革や財政再建の成否を占う上でも大きな注目が集まります。

政府や議会が社会保障改革などの構造改革を着実に進める場合は、ブラジル経済に対する信認改善や利下げによる景気回復と相まって、レアルの下支えになると期待されます。

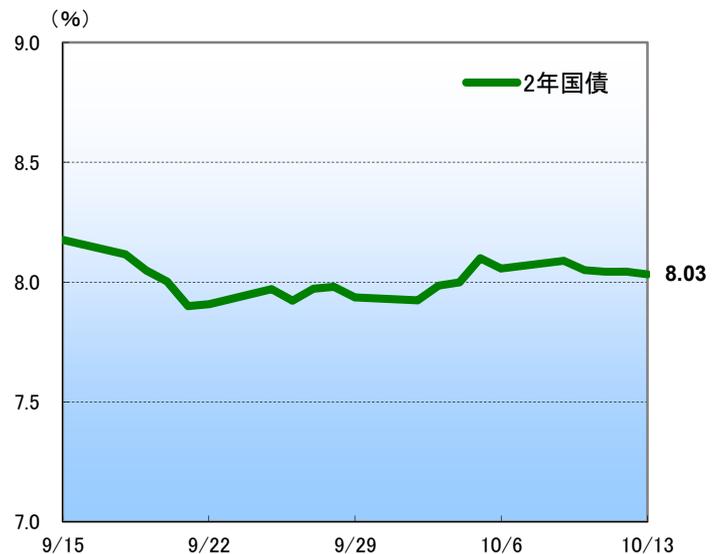
経済指標については、経済活動指数やインフレ率(IPCA-15)などの発表が注目されます。

【ブラジル・レアル 為替推移】(2017年9月15日～2017年10月13日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】(2017年9月15日～2017年10月13日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

大和投資信託

Daiwa Asset Management